

# 日刊 動労千葉

84. 5. 19

No. 1644

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七）

# 国労をよそおった「ビラ貼り」事件 を口実とした職場破壊攻撃を許すな

## 国労・動労千葉への組織破壊攻撃に血道 あげる当局「動労本部革マル弾劾！」

五月十二日、国労津田沼電車区分会は、去る五月一日の「国電ビラ貼り」事件について、これが分会の行動ではないことを明らかにするとともに、「組織破壊を目的とした何者かによる謀略的ビラ貼りを弾劾する」との分会執行委員会声明を発表しました。  
われわれは、今回の「ビラ貼り」事件を口実とした当局の「職場規律の確立」攻撃を断じて許さず、戦闘的拠点・津田沼電車区職場を守りぬく決意を明らかにします。

### 国労津田沼電車区分会が弾劾声明 5/12

五月一日、津田沼電車区構内に留置されていた電車のうち七本に「国労」名のビラが貼られ、出区した電車が総武線を走り、国鉄本社をはじめ、千葉鉄当局は「国労千葉地本および津田沼電車区の誰かがやった」として弾圧を加えようとしてきました。動労千葉は断固これに抗議しました。

さらに当局は、「ビラ事件」を口実に「職場規律の確立」と称する様々な攻撃を開始し、津田沼電車区職場で働く労働者に大きな怒りを呼びおこしています。

こうした中で、五月十二日、国労津田沼電車区分会は、詳細な調査を行った上で執行委員会を開催し、五月一日のビラ貼り行動は指示も実行もしていないこと、貼られたビラは全て国労名となっていないが、その内容は全く古いものが数種類にも及んでおり、目的が不明であること、従って、今回の「ビラ貼り」の目的は、国労津田沼分会がビラ貼りをしたかのようにみせかけて当局・権力の弾圧をひき出すことを狙ったものであり、こうした謀略ビラ貼りを弾劾し、全組合員一丸となって反撃する、との声明を発表しました。

### 目的が不明確な「ビラ貼り」

動労千葉の調査によると、五月一日の午前二時から三時頃、津田沼電車区構内の18〜23番線に留置された電車に約一〇〇〇枚のビラが貼られました。

これらのビラは、午前四時三〇分から七時にかけて連続的に出区する電車にのみ貼られ、「国労」の文字が印刷されているものの「国鉄運賃値上げ

### 目的は戦闘的職場の破壊

津田沼電車区は、国鉄本社が全国数カ所の特定職場の一つに指定する「問題職場」（戦闘的労働運動の拠点職場）であり、動労千葉津田沼支部が存在し、入浴闘争をはじめ国労分会との共闘により、当局の攻撃をはね返して闘っている戦闘的拠点職場であります。

従って、当局にとつてがまんにならない職場であるとともに、同時にそれは動労「本部」革マルにとつても「あつてはならない職場」として両者は一体となつて、たえず闘争破壊・組織破壊を狙つてきていたのです。

そのために東洋大学革マル分子の嶋田を前歴をかくして入社させ津田沼に送り込み、更には動労東京の極悪革マル分子の海宝（津田沼へ）長谷川（新小岩へ）を千葉にわざわざ「転勤」させて送り込み、戦闘的労働運動の破壊のために一貫して腐心してきました。事実、津田沼に細々と巣くう嶋田や野口ら革マル反動分子は「4・17の武装襲撃」や、「6・12の権力へのデッチ上げ告訴」や本社、千葉局へのタレ込みを行う等、常に組織破壊策動を先頭につてくり返してきました。

そしてこの「ビラ事件」を契機に「職場規律」を口実とした「安全帽・名札着用」の強制と、ワッペン着用に対する不当介入を開始した津田沼電車区当局の攻撃に対し、嶋田ら革マル分子は、これに抗議の声もあげず、これと軌を一にして国労分会と動労千葉津田沼支部への攻撃（この間の彼らの「千葉地本情報」等では「国労への対決」を声高に絶叫している）にうって出てきており、断じて許すわけにはいきません。

われわれは、当局、反動分子一体となつた津田沼電車区の職場破壊攻撃に対し、国労との共闘体制の強化によって必ず打ち破る決意を明らかにします。

東京↓千葉の国鉄総武線  
「ビラ電車」走る  
（5/4サンケイ）  
「ビラ電車」走る  
（5/4サンケイ）

反動ブル新がさつそく  
攻撃。断じて許すな！